

幌都新聞

PR版

札幌を活動の場に取材・撮影プロダクションがこのたび開業しました。名前はホロト・プレス。北海道的な響きを持つこのプロダクションは、クライアントのあらゆる要望に対応できるように、軟派な記事から硬派な記事まで幅広い得意分野を持つています。代表は、報道写真を始め様々なルポなど手がける元朝日新聞記者、カメラマンの野口隆史。北の大地は観光以外にも取材の広がりがあります。北海道は日本社会の縮図でもあり、様々な問題点もありルポを含め多くの情報を発信することが出来ます」と話しています。

これまでの仕事と経歴
 主な発表媒体は朝日新聞、時事通信社、しゃりばり(社団法人・北海道総合研究調査会)、北海道建設新聞、週刊朝日、アエラ、グリーンパワー、婦人公論、フラッシュ、財界さつぽろ、などです。(下は経歴裏面も参照下さい)

機動力と取材力、魅せる写真で皆様方の要望に応えていきます

ホロト・プレスは札幌で二〇〇六年一〇月から新たに活動を始めた取材・撮影プロダクションです。

ホロトの意味は札幌の幌(ホロ)と北都の都(ト)を掛け合わせた造語です。北の大地のイメージを大切にしています。

主な仕事は、新聞・通信社、雑誌社の取材、原稿執筆、写真撮影です。観光から事件・事故のニュース、スポーツなど幅広く対応しています。迅速で間違いのない写真出稿と記事出稿を常に心がけています。

そのほかに、地域団体から依頼された単行本の企画実現のため、取材・撮影・執筆を行っているほか、写真の貸し出しも行っています。

札幌を中心に活動

事務所は札幌市内に二ヶ所あります。いずれも市の中心部の古い建物を利用しています。

一つは閉校となった旧曙小学校の理科準備室。もう一つは旧大正13年建築の赤レンガの蔵を持つ元質屋です。レトロな雰囲気の中で仕事を進めています。

基本的な取材エリアは北海道が中心ですが、日本全国、全世界が対象です。北海道内での取材は地の利、人脈などを生かし、より深く食い込んだものとなります。

北海道まで取材に訪れるための交通費が大幅に節約できるのも皆さん方にとってメリットとなります。



- 主な業務内容は以下の通りです
- 国内外を含めた観光情報の取材、撮影
 - 雑誌の各種ルポ
 - 雑誌、新聞・通信社の業務受託
 - 編集プロダクションの業務受託
 - スポーツ、イベントの各種撮影
 - 記事広告の取材、撮影、編集
 - 会社案内、学校案内のパンフレット作成
 - 事件、事故の報道取材、撮影
 - 人物インタビュー撮影、取材
 - その他、ご相談に応じます

1960年 愛知県名古屋生まれ

1986年 駒沢大学卒業後、朝日新聞社入社 東京本社編集局写真部カメラマンとなる

1987年5月-1988年3月 朝日新聞水戸支局勤務 記者として警察・遊軍担当

1988年4月-1990年10月 朝日新聞東京本社写真部この期間の主な仕事は国内では中国残留孤児、高校野球などのスポーツから日々の一般ニュース、企画など海外ではマレーシア・イボの日系企業の公害問題のルポ、一連の東欧革命で旧東ドイツ、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、旧チェコスロバキアなどを取材。特にルーマニアではチャウシェスク政権崩壊に際し、日本の記者として最初に同国入りを果たし、第一報ルポを打電する(JITCブックレット「新聞の秘密」参照)。湾岸戦争ではイラクの周辺国をルポ。イスラエルのインティファダ(民衆抵抗運動)、レバノンの内戦終結など

1990年11月-1991年10月 朝日新聞東京本社社会部首都圏(新宿区、豊島区、中野区)を担当。この間に統一地方選挙の取材のほか、「じゃばゆきさん」「東京遺跡考」「連載企画・東京劇場」などのルポを多数執筆

1991年11月-1993年10月 朝日新聞東京本社写真部 国際貢献取材チームとしてフィリピン・ピナツボ火山後に生活場所を追われたアエタ族や米軍基地のその後のルポのほか、ミャンマー(ビルマ)の軍事政権に追われたイスラム教徒ロヒンギャ族などを取材・撮影する。またカンボジアPKO取材では足かけ3年に渡り10回近く同国を訪問。ボル・ポト派拠点の潜入ルポのほか、同国事情の多数の写真ルポを手がけた

1993年11月-1996年9月 朝日新聞北海道支社報道部 アイヌ民族問題や北方領土問題などを取材する1994年にアイヌ民族をテーマに扱った「蒼野茂の世界」で北海道写真記者会賞企画部門賞受賞

1996年10月-1998年7月 朝日新聞東京本社写真部 主に遊軍として活動。ペルーの日本大使公邸人質事件でキューバに特派されたほか、カンボジアのフンセン派とラナリット派の軍事衝突とその後の様子をルポする

1998年-2000年3月 朝日新聞北海道支社報道部写真担当課長 アイヌ民族問題を中心に取材活動する。アイヌ語を写真で映像化する連載を企画

2000年4月-2000年9月 青年海外協力隊のソロモン諸島派遣に向け長野県駒ヶ根市の研修センターの訓練を終了。しかし部族紛争で派遣が見合わされ、国内待機となる

2000年10月-2004年3月 フリーとして活動する一方、北海道東海大学で非常勤講師として国際協力論と画像情報論を受け持つ

2004年4月-2005年3月 核の無い平和な未来と先住民族の権利回復などを歩きながら訴える国際平和巡礼に参加。移動写真展を実施する

2005年5月-2006年8月 旧札幌市立曙小学校の廃校を利用して「あけぼの写真工房」と「あけぼの編集工房」を立ち上げ、その代表を務める。北海道岩内地方の聞き語りをもとめた単行本「北辺の語部」(共著、2005年10月)出版される

2006年9月-現在 取材・撮影プロダクションとして「ホロト・プレス」の活動を始める。時事通信社の仕事の受託を開始。